

# 中野区立桃園第二小学校 同窓会通信

—第18号—



いよいよ今年は開校100周年!!  
同窓会会長 矢島寛典(三七期)

「同窓会通信第18号」の発行に当たり、先ずは皆様からの平素の同窓会に対する暖かいご支援に心より感謝申し上げます。母校はこの4月、桜満開の中、51名の新入生を迎え、開校100周年となる令和3年度を迎えました。

この大きな佳節である開校100周年を盛大に祝うため、一昨年には学校、PTAに加え、学区内の5町会、そして同窓会から成る「開校100周年を祝う会」が発足しました。そして現在、この「祝う会」を中心に祝賀会の開催、百年誌の編纂、児童の作品展、手拭・Tシャツなどの記念品物販、商店街などの地域への広報活動等々に取り組んでおります。



▲中野駅改札前の横断幕

同窓会としてはこれらの活動の原資拠出に協力すると共に母校のお祝いには、音楽活動のさらなる充実のために希望されている金管楽器を贈呈の予定でございます。

ついには毎度お願いで恐縮でございますが、同窓会活動の原資となる一般協賛金に加えて100周年用寄付も宜しくお願い申し上げます。

尚、ご寄付くださった皆様のご氏名は「百年誌」の巻末に記載させていただきます。ご了承ください。

祝賀会や百年誌の詳細については挿入の資料をご覧ください。

い致します。多数の皆様のご参加購入をお待ちしております。



100年の歴史をこの先へ  
祝う会副会長 大月啓介(六四期)  
PTA会長

今年3月、サンモール商店街に「ももにももとせ」と添えられた大きな絵が掲げられました。児童が力を合わせて描いた、「100年育った桃二の樹」です。PTAのサポートと、サンモールの協賛により実現した企画です。さらに4月、おやじの会の協力のもと中野駅に横断幕が張られ、桃二100年目の幕が開けました。

同窓生、児童、学校、保護者、地域。桃二に縁のある皆で祝おうと活動を進めています。現在、地域の商店に資金協力をお願いに回らせていただいています。卒業生であるなしに関わらず、皆さま快く応じてくださり感謝に堪えません。そんな中で同窓生とお話すると、多くの方が小学校での日々を大切そうに語り、児童にあなたがかい目を向け、桃二のこれからの想いを馳せます。その様子が母校のかけがえのなさを感ずりますが、先日、50周年で児童が

書いた作文を目にし、その思いがさらに強まりました。

「桃二は今50才。何才まで生きるのかな。百才になるころ、世の中どんなになるのかな。そのころぼくはもうおじいちゃんだ。五十年後の桃二を見て、どんなにおどろくだろう」

彼が思い描いた未来である100年目の今。さらに50年、100年後へと目を向けるこの大きな節目に、桃二のこれまでを振り返り、この先へとつなげる一助となるよう取り組んでいきたいと思えます。コロナ禍による模索が続きますが、同窓会の皆様におかれましても、引き続きご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。



QRコードは、周年HPへのリンクです。  
(スマホのカメラを向けてみてください)  
(HPにとびます)



## 同窓会新役員名簿

令和二年七月十九日午前十時  
三十分から母校会議室に於いて  
第八回同窓会総会が開催され新たに左記の方々が役員として就任しました。

顧問 大藪正哉 (二二期)

郷 忠雄 (二四期)

会長 矢島寛典 (三七期)

副会長 武田尚夫 (三六期)

(会計) 石原宏祐 (三七期)

長谷部智明 (五二期)

吉田康一郎 (五八期)

常任幹事 宮内淳夫 (二二期)

中川勝弘 (三三期)

菊池 清 (三七期)

松村浩之 (五二期)

古澤昌彦 (五二期)

武田 浩 (五五期)

大月啓介 (六四期)

幹事 林 キヌ (一八期)

遠藤喬介 (二三期)

大谷典孝 (三五期)

会計監事 新居靖之 (三〇期)



桃二小の思い出について

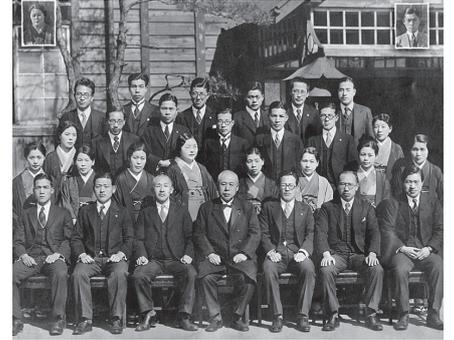
林 キヌ(十八期)

私は昭和九年四月に桃二小に入学しました。男女組で、一年生から四年生までの担任はお茶の水女子高等師範ご出身の山下千代子先生、五・六年生はご実家が長野で、当時は上高田にお住まいの折井浩先生でしたから、担任として直接お世話になった先生はお二人だけでした。

先生方は勉強の指導を一生懸命されていましたが、宿題がたくさん出されたという記憶はないので、そんなには出されなかったのでしょうか。当時、桃二は進学校だったので、通学定期を持って電車で通っていた児童も何人かいました。

まだ幼かったので、近藤校長先生に対しては「近寄りがたい偉い人」という印象でした。でも、父は学校の用務員室で、先生方相手に碁や将棋をよくしていたようです。そういう大らかな時代だったのかも知れません。

正門前のお店でお昼のパンを頼んだこともありましたが、ほとんど毎日お弁当を持って学校へ行



▲近藤第三代校長と教職員の方々

き、冬は教室の石炭ストーブの上

に付けられた網の囲いの中へ自分たちでお弁当を入れて温めていました。 集団登校のようなものではなく、みんなバラバラに登校してました。お友達と一緒に通学することもありなく、ひとりっ子だったので一人で行っていたと思います。近所の子と喧嘩すると、公道なのに「自分の家の前を通さない！」と言われたこともありました。昭和通り（現在の早稲田通り）は狭く、車ではなく牛に引かせた荷車がゆっくりと通るような道で、雨の時はぬかるみで大変でした。

休み時間や、学校から帰ってから何をして遊んでいたのかあまり覚えていませんが、冬は教室のストーブの周りにお友達とよく集まっていたことや、帰宅後は、店先でお人形を抱っこして、両親が家業のお茶を詰めているのを見てい

た事は記憶しています。

また、当時の校庭はコンクリートだったため、転んだ時に歯を欠いた事を桃二小時代の思い出として今でも覚えています。

伊勢神宮などへ行った修学旅行については、連れて行かれたという感じで、特に強い印象は残っていませんが、旅行前に両親が買ってくれた「だぶだぶ」のレインコートを着て、朝早く中野駅に集合したことをよく覚えています。

桃二小が百周年を迎えることは、自分の誇りというわけではなく、自分が学んだ母校が歴史ある学校であることをとても誇りに思っています。



桃二は中野の学習院だ!!

山田 典雄(二七期)

永年に渡って、多くの方々から、「桃二は中野の学習院」と噂されるようになりましたが、その「謂れ」については、ご存知の方が皆無に等しく、実は紛れもない「事実」が有りました事につきまして、この度、百年誌に寄稿するに至り、過去を紐解くことによつて、ご納得いただけるのでは

ないかと存じます。

私は、終戦後間もなく、福島県から中野区上高田に引越して参りましたが、桃二小への入学には、区域外のために、打越町に住んでいました親戚に寄留しての、越境入学でした。父には、桃二の校風に対しての強い想いがあったのではないかと考えられ、その決断によつて、私の人生が大きく影響されたこと云つても決して過言ではありません。

四年から入学させていただき、担任の岩本先生「ガンポン」には、「厳しさ」と「優しさ」を教わりました。

五、六年は三組で、西澤萬三郎先生にご指導いただきましたが、休みが多くその都度、四組の小田切先生が教鞭を執っておられました。休み明けの西澤先生の顔は、「赤チン」だらけで、別名「赤チン先生」とも囁いていました。

数々の思い出と楽しく過ごした小学校をお別れし、いよいよ中学校への受験期を迎えることになりましたが、実は、今日でも到底考えられないような驚くべき事と申しましょうか、真に喜ばしい事実があつたのです。

それは、男子三人、女子二人の五人もが、学習院中等科を受験し、揃つて合格したのです。 入学者名を敬称略で明記させていただきます。

- 一組 岸本晴子
- 三組 学習院女子中等科 宮崎光子
- 三組 学習院女子中等科 山野正義
- 三組 学習院男子中等科 山田典雄
- 四組 片桐誠一郎
- 学習院男子中等科

一校から、五人も揃つての入学は、当時の都内小学校では一校もなく、桃二開校以来の快挙として、鈴木正義校長先生を始め、三組から三人も合格者を出した西澤先生の胸中は元より、諸先生方、父母会の皆様方まで、全校挙げての喜びと誇りには、計り知れないものがあつたのではないかと想像されます。

このような事実を源に、伝統ある校風と誇りに対して、何時しか、「桃二は中野の学習院だ」と、噂が、世間に拡がり始めたのはと当時、父母会の会長を務めていた父から聞かされておりました。

今日を顧みるに、編入許可を承諾していただいた母校に対しては、より一層の誇りを抱きつつ、校歌で歌われていますように「桃園第二のまなびやの教え尊しこのおしえ」を、生涯忘れることなく、教訓である「希望」「敬



▲懐かしい三組の仲間たち

愛」「剛健」の教えを旨とし、力強く生き抜いて参りますことを、五人を代表して、お伝え申し上げます。尚、この度の寄稿に当たり、學習院中、高等科卒業記念アルバムを、何十年振りかに見開きましたところ、男子三人が同じクラスで学んだ写真が見つかり、百周年記念行事には、旧交を暖めたく、是非とも揃っての参加をするべく、考えております。

終わりに当たりまして、學習院高等科櫻友会事務局、本校山崎義弘校長先生、同窓会矢島寛典会長各位のご協力を賜りました事、改めてまして、厚く御礼と感謝を申し上げる次第でございます



思い出

上田利江子(三三期、旧姓・石原)

終戦の三年前、昭和十七年八月に私は中野区天神町で生を受けました。そして、昭和二十四年四月、父の母校でもある桃園第二小学校に入学しました。現在七十八才!!  
小学校の頃の記憶はほとんど皆無です。

掘り起してみますと、戦後間もない時代でしたので、母と闇市に入学式に着る為の洋服を買いに行った事、入学当初は一年生は七クラス位有り、午前、午後の二部授業が行われていた事などが思い起されます。

私は一年一組、筆宝先生という、しっかりした女の先生でした。言う事を聞かない男の子らを教室の廊下にあつた(防空壕として使用していたのであろう)中に入れ、お仕置きをしたりしました。しかし、利かん気の強い子供は廊下からぬけ出して家に帰っていたという様な件があり、ずいぶんと自己主張の強いしつかりした子ども、今になると思われます

が、教師としては大変だったろうと想像されます。

三年生になるとクラス替えがあり、その後何人かは卒業までの四年間を共にする事になりました。担任の竹ノ内一郎先生は国語の先生で、図書館新設の為に力を入れていて出張も多く、私達は副担任として佐々木先生に面倒を見て頂く事になりました。若くて美しい新任の先生で私は大好きでした。

図書館開館の一ヶ月位前だったと思いますが次々と入って来る新書を自分のクラスに置いて「自由に読んでも良い」と竹ノ内先生が許可を下さり、図書館に並ぶ前の本を読む機会を与えて頂いた事は、本が大好きな私にとつてこれ以上ない嬉しさでした。図書館に並ぶ頃には興味のある文学作品はかなり読破していた様になります。

私達のクラスは三分の一位の生徒が中学受験をした様に思いますが、校舎に電気が灯く教室はなかった時代でしたので、受験間際の一月頃には暗くなって、用務員のオジさんが「帰りなさい!!」と廻つて来るまで、問題集を解いていた様な記憶が有ります。

後年、振り返ってみますと、大が教授になった方、銀行の支店長になった方、大手の会社の重役さん、料理学校を設立された方や、写真家、音楽、アパレル関係の仕

事を生業とされた方等、それぞれの分野で実力を発揮されている方が沢山おいでになる非常に個性豊かなクラスだったんだと痛感しております。

卒業の時に竹ノ内先生が、有島武郎の「一房の葡萄」という文庫本に、「ぼつぼつと登る坂道の遠けれど身を健やかに登れ教え子」と書いて一人一人にくださったのは何よりの思い出で、心の宝です。



▲竹ノ内先生宅での父母の会

私は卒業してからも、堀越先生に陶芸の為の「ねんど」を頂いたり、望月達雄先生の書展を見に行かせて頂いたり、ずっと桃二小との細い糸を継いでいます。本当に母校という思いが有ります。これからもより一層思いを継いでいける温かな学校であつてほしいと思つていきます。



伝説の教師

長谷川孝二(四三期)

その先生の名は栗林良先生。

戦時中、桃二の敷地内に落下した焼夷弾から校舎を守り、火災を未然に防いだという逸話が児童から児童へと語り継がれる伝説の教師である。そのため、わたしの入学時には既に最古参のお一人で、他の先生方に混じると明らかに「お爺ちゃん先生」といった風貌であった。といつても、栗林先生がわたしの受け持ちの先生だったことは一度もなく、一番身近にいらした時で、隣のクラスの先生であった。

社会科の教育に熱心で、そのクラスの児童は、よく先生に連れられて近所のお寺などを社会科見学していたようだ。

夏のプールで行われる体育の授業は、数クラス同時に参加するため、これが栗林先生とわたしとの数少ない接点のひとつとなっている。油断している子供の背後からそつと近づいては、頭を押さえて顔を水につけてしまうような悪戯は序の口で、抱えあげられ、逆さ

まに水中へと放り投げられた経験のある卒業生は大勢いるはずだ。これをまた、いかにも楽しげに満面の笑顔で行うのであるから、わたしのように、おっかなびつくりは、まさに恐怖の対象であった。

もちろん、こうした荒業を仕掛けられるのは元氣一杯の腕白坊主のみと記憶していたのであるが、わたしより4歳年下の妹は栗林学級の児童だった当時、プールでの授業中に逆さ投げを決められた経験があるという。どうやら、受け持ちのクラスの子供たちは遠慮のいらぬ気心の知れた存在と見なされていたようだ。

ある年の夏、父方の田舎を訪問する目的で、母に連れられ東京都のはずれに位置する清瀬駅で下車した時のことである。全くの偶然から栗林先生のご一行と出くわしたことがあった。多分、クラスの児童数人とそのお母さん方を引率して社会科見学に来ていたのだろう。志木街道を埼玉県の新座市方面に向かつてしばらく一緒に歩いていると、ある場所で突然、先生が一同をストップさせた。その時の先生の説明は今でも鮮明に覚えている。そこは東京都と埼玉県の県境にあたる地点だそうで、道路に目をやると、なるほど、そこから先はアスファルトの舗装ではなくなっていた。朝霞基地に入入り

するカーキ色のボンネット・バスが、砂埃を巻き上げながら走っていた頃の話であるが、わたしは栗林学級で行われていたであろう社会科の授業を垣間見た気がした。



▲当時の安田第八代校長と教職員の方々

教育者としての実績も人望も十分でありながら、敢えて昇進は望まず、低学年児童の学級担任という教育現場を自らの居場所と定められていたように思う。そんな栗林先生に対する畏敬の念を語る同僚の先生方は少なくなかったと聞く。



桃二小の思い出

大浜 譲治(五九期)

一九七五年の春に桃二小に入学

した私たちの学年には学級が五クラスあった。前後の年には及ばなかったが、大所帯の学年だった。当時流行していた遊びの記憶をたどると、ドッジボール、刑泥、ゲームウォッチ、ゴム段、チェーリング、ウルトラマン怪獣カード、スーパーカー消しゴム、コカ・コーラの王冠(裏にスターウォーズのキャラクターなどが印刷されたもの)集めなどが思い出される。それらのほとんどは、引越しの際に手放してしまったが、今も記憶に残っている。



▲当時の運動会模様

卒業アルバムをめくると、学芸会の劇や遠足の際のモノクロ写真が並んでいる。そこに写っている級友たちの中には、区外へ移動した人もいれば、海外で活躍する人もいる。一堂に会することは難しいが、インターネットの恩恵もあって、個別には連絡が取れることはありがたい限りだ。

私自身は何度か転居を繰り返して、結局今は桃二小の校舎がベラ

ングから見える住まいに暮らしている。中野の町は急速に姿を変えてくれた場所は心が休まる。ところどころで、ここでもう少し私的なことを書くことをお許しください。今考えると、私は小学校時代冬でも半袖半ズボンで登校していた。今考えると、何故そんなことをしたのかわからないのだが、上には上がいて、S君という猛者がいて、彼は真冬でもランニングに半ズボンといういでたちであった。私が半袖止まりでランニングを着なかつたのは、彼ほどの耐寒能力がなかつたか、一種のリスクベクトのようなものからだったかもしれない。

話を元に戻そう。桃二小が、百才を迎えるという。今では、選挙の投票日に足を運ぶ程度になつてしまつたが、たぐさんの思い出のある母校の傍で暮らせる喜びを噛みしめながら、これからも近くから母校の発展を見守つてゆきたい。



小学校の思い出

大谷 祐介(六五期)

その当時は、各学年とも四クラスあり、一・二年生の教室は現在

の体育館がある校舎にありました。休み時間や校庭開放の時間になると、校庭はたくさんの子どもであふれていました。

プロ野球の季節には野球を、オフシーズンにはサッカーを。ほぼ毎日、夕方まで校庭で遊んでいた記憶があります。



▲当時の運動会模様

小学校生活の中で特に記憶に残っているのは三・四年生の時。担任は鳥山敏子先生でした。

鳥山先生は「大きな森の小さな家」という本を読んでくれました。内容は「人は皆、他の命の犠牲の上に生きている」というものでした。動物も植物も同じ命を奪い、人間はその命をいただく。若干九歳、十歳の心にとても深く響くものでした。自給自足の大切さや、家畜の豚を余すことなく利用することなど、先生は熱心に語りかけてくださいました。そんな中、命の授業というもの

が行われました。解体途中の豚一頭分が教室に運び込まれ、業者の方に豚の部位の説明をしてもらいました。相当の臭いだったことを覚えています。

説明の後は、調理実習も行いました。ソーセージを作るために腸を取り出して見せてもらった時は、かなりの衝撃を受けました。中身がそのままだったのです。それを手に取り、流しで絞るように洗い流すことなど、なかなか経験できることはありません。皆、顔をしかめながら勇気を出して洗い流しました。

きれいになった半透明の腸に豚のひき肉を詰めて、大人の手を借りながら作った燻製箱に桜のチップを入れて燻したソーセージは、とても美味しかったです。

子どもの手のひらに取まってしまふほどの小さな脳みそも、実際に手に取って見せてもらいました。「こんなに小さな塊の中で、豚は何を考え思っていたのだろう」という先生の問い掛けに、子どもながら戸惑いを感じました。

先生から教わったことでもう一つ心に残っているのは「人は誰かに助けてもらうことで生きていく」ということです。当時はあまり気にしていませんでしたが、今思い返すと、登下校中にあちこちで大人に「おはよう」「おかえり」と声をかけられていたような

気がします。きつと、その所々の町会の大人が見守ってくれていたのでしょうか。

私は現在も中野区に住み、二人とも桃二小にお世話になりました。子育てをしていて痛感したこととは、学校の先生方はもちろん、地域の皆さんの協力があるからこそ、子どもは安心して学校に通えるということだと思います。

だんだん子どもの数が少なくなっているのは少し寂しいですが、学校や地域の皆さんと共に、未来ある大切な子どもたちの成長を見守っていききたいと思っています。

この原稿を書いている今、世の中は新型コロナウイルスの蔓延で大変なことになっています。一日でも早く、安心・安全なワクチンと治療薬ができることを祈念しております。

この拙い文章を皆さんに読んでいただける頃には、平穏な世の中に戻っていますように。



桃二小雑記

上村雄法(八十期)

この度御縁をいただきました、

誠に僭越ながら一筆書かせていただきます。

保善寺の先々代も桃二小、母も桃二小もちろん私の妹も桃二小の卒業でございます。

ほぜんじ幼稚園からも徒歩五分ほどと近く、幼稚園の卒園生も多く桃二小に進学し、運動会の折には校庭を毎年使わせていただいているところからも保善寺と桃二小とはご縁が深く思います。

ちょうど私が卒業した時が八十周年の記念の年だったかと記憶しております。

開校八十周年の記念の年の最高学年なんですよと先生方から何度もお言葉をいただいたことや、運動会などと同規模な記念式典や先日他界されましたベギー葉山さんの記念コンサートなどの思い出はこの年に卒業した者たちの思い出かもしれません。

桃二小での思い出等なんでも結構ですとのことでしたが同窓会通信にふさわしい思い出を是非とも書かなければとのことで卒業アルバムを片手に桃二小での六年間を少し思い出してみました。こうしてアルバムを見返しながら思い出してみようと意外と忘れていたことも多いものでした。

私が入学したころ、一年生の教室は本校舎ではなく体育館のある西校舎でした。一年生のころはなかなか本校舎へ入る機会もなく本

校舎は一体どんなところなのだろうかと未知の領域でした。

二年生に進級したのち本校舎へと移り、その年の終わりごろにコンピュータ室ができたかと記憶しております。当時はまだウィンドーズ95が導入されていましたがすぐに当時最新のウィンドーズ98も導入され3年生の授業からパソコンを使った授業が始まりました。最初はワードエクセルを使うといった授業ではなく算数のソフトなどを使ってパソコンに親しむといった内容で、データの保存もまだフロッピーディスクでした。

クラブ活動の中にもコンピュータークラブというのがあり、パソコンでゲームをやりたくて入ったこともありました。

今にして思えば最新の機器に子供ながら触れていたのは大変にありがたいことであつたと感じます。

また、高学年になってからは常葉林間学園や、軽井沢の移動教室なども印象深く記憶しております。十月の軽井沢でガタガタ震えながら半分凍っているような弁当を山で食べたことなど今にして思えばいい思い出です。

今でもたまに桃二小の同期生で集まることがあります。新型コロナウイルスが流行してからは控えるようにしていますが年末に忘年会と称し、みな様々な事情で地元

を離れるものが多いですが、ある程度の人数が集まるのはうれしく思っております。

桃園第二小学校は開校百年を迎えると伺っております。地域の学校として益々の発展をお祈りいたします。



▲80周年記念児童集会



▲80周年式典模様

協賛金をお寄せいただいた  
方々のご芳名一覽(敬称略)

- 青山翔一 赤荻卓司 赤川武司
- 赤塚 等 秋山範子 浅井愛子
- 新井裕英 阿良木健 石坂敏子
- 石崎 享 石原宏祐 石森芳明
- 板倉由美子 猪谷敬二 猪谷信一
- 伊藤清子 伊藤陽子 稲垣邦彦
- 井上千鶴 岩間重夫 上田利江子
- 上野直子 海野治雄 江島宣雄
- 榎本利枝 遠藤喬介 遠藤純子
- 大石弘子 大来修一 太田 忠
- 大谷典孝 大西晴夫 岡 泰子
- 岡崎二郎 岡田 宰 小倉佳津子
- 小田美代子 小野桂之介 勝田忠夫
- 金子正一 神山 映 神山 円
- 神山 暢 神山 恒 河合寿子
- 川瀬哲男 木内康郎 菊地 清
- 岸本剛一 木津優子 北山幸子
- 木下正治 塚好紀 刑部絹子
- 國友佳子 窪寺 茂 窪寺節子
- 熊谷中広 熊埜御堂隆 熊埜御堂浩
- 栗林千里 黒木路代 黒米光子
- 後藤英夫 小宮山正夫 小山茂雄
- 是村 勇 齊藤政之 佐々木泰
- 佐竹春美 佐藤直生 佐藤優生
- 佐藤由枝 佐藤禮子 佐野秋子
- 志賀 崇 篠 鋭朗 島田信一
- 清水晃一 神保郁子 鈴木昭央
- 鈴木明善 鈴木孝男 鈴木智恵子
- 鈴木雄介 鈴木祥身 関 紀子
- 外山光子 園尾恵三 高橋尚希
- 高橋万里子 竹内 皓 竹澤園子
- 武田彩海 武田邦夫 武田尚夫
- 武田 浩 武田道夫 田中幸子

- 田中慎吾 田中洋子 田村徳章
  - 近森真哉 塚和夫 塚美佐子
  - 中川勝弘 中村 定 中村尚美
  - 中村正國 西尾利子 西村寿子
  - 西本ちづこ 橋本浩一 畑岡君枝
  - 服部史郎 濱田矩彦 原田忠良
  - 福井誠夫 藤井 武 藤田純子
  - 伏見知子 古澤和哉 坊野喜彦
  - 穂刈勲夫 保坂和弘 保坂直子
  - 星野洋子 堀尾輝三郎 堀尾輝明
  - 町田禮子 間々田美津子 三鬼春郎
  - 三村禮子 宮内淳夫 宮崎淑子
  - 村上恒道 村瀬浩司 村瀬吉信
  - 盛田文字 矢島寛典 八代裕康
  - 矢部武志 山崎龍一 山田淳子
  - 山本喜美江 山本孝之 吉井俊枝
  - 吉川トミ 吉本琢也 米澤文字
  - 米戸一雄 渡邊正憲
- ◎協賛金は以上、152名の方々からいただきました。厚く御礼を申し上げます。

◎訃報

以下の方々が逝去されました。長きにわたる協賛金などのご支援に感謝申し上げますと共に故人のご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

- (10期) 河合信秀 中井和代
- (12期) 鈴木能文
- (14期) 桜井洋子 高村静子
- (15期) 堀 敏夫
- (16期) 磯野桂子
- (17期) 小泉かずこ
- (18期) 熊谷貞雄

- (19期) 池田八重子 矢野ちくさ
- (20期) 青柳光男
- (21期) 上杉和子 江藤照子 熊谷中宏
- (22期) 松崎 嵩
- (23期) 倉次良穂 佐々木泰 柴田有康
- (24期) 田中華子
- (25期) 武井雅男 牧野 彰
- (26期) 金子昭三
- (29期) 橋田文字
- (30期) 荻原吟二
- (32期) 村山康子
- (33期) 新居文樹 森居ふみ子
- (35期) 天野圭介 石原幸子 福田昭男
- (36期) 鈴木智恵子 田川正一
- (37期) 板橋榮子 大場晴見 佐藤由枝
- (39期) 佐々木正子
- (51期) 小林 裕
- (58期) 吉川泰子

母校・桃二小情報

◎教職員の異動(敬称略)  
石原江美(主幹教諭) 転出



平成26年度に着任しました。93、95、98回の卒業生を担任しました。皆さん、お元気ですか。桃二小に着任し、まず驚いたところが五町会の運動会。地域行事の熱さに驚かされました。ほかにも多くの地域行事で、同窓生の皆様にたくさん声をかけていただきました。その度に皆様の桃二愛の強さを感じ、私自身も桃二小のことが大好きになりました。ペギー葉山さんをはじめ数名の同窓生にいらしていただき、6年生に向けて集団疎開のお話をして

いただいたこと、一緒に「ドレミの歌」を歌ったこと、今でも鮮明な思い出として残っています。桃二小の素直でやさしい子どもたちは、愛にあふれた地域、卒業生が築いた伝統によって育っているのだと思います。

職員として百周年を一緒にお祝いできないことは残念ですが、百周年記念の行事が(コロナ禍にあっても)、盛大に行われることを心から願っています。

私は杉並区の桃二小(桃井第二小)に異動しました。桃二のご縁のおかげで、桃園第二小学校のことをいつも思い出します。皆様のことを思いながら新たな桃二小で子どもたちのためにがんばります。皆様のご健康とますますのご発展を祈念しております。7年間、ありがとうございました。(注)杉並区立桃井第二小学校の副校長に着任されました)

【発行人】矢島 寛典(三七期)

・編集担当

武田尚夫(三六期)

石原宏祐(三七期)

吉田康一郎(五八期)

・同窓会事務局

〒164-0001

東京都中野区中野六十三一

中野区立桃園第二小学校内

電話 ○三(三三六三)〇六六一

FAX ○三(三三六三)〇六六二

◎電話FAX共に桃園第二小学校

教員室用です。同窓会へのご連絡は書面で

お寄せ下さい。

表題の揮毫は、中部日本書道会評議員、尚

和会常任理事上田青畦(せいけい)氏。本名

上田利江子さん(三三期)

桃園第二小学校同窓会

令和2年度収支明細報告書

自 令和 2年4月 1日  
至 令和 3年3月31日

単位:円

科目	金額
収入	1,234,567
支出	987,654
繰越金	123,456
当年度収支差	323,457

収支明細を監査した処、何れも適正に処理されておりますのでご報告申し上げます。

令和 3年 4月 9日

会計監査 新居 靖之 印

- 焙りたての薫り豊かなコーヒーを店頭販売しております。
- 業務用、オフィス、御家庭にお届け致しております。

ご相談下さい。

折原 伸 (47期)



〒165-0026 中野区新井1-2-27

TEL 3387-1151(代)

FAX 3228-1151

イイコーヒー

下記の同窓生並びにその関係者の企業、商店、事務所から広告掲載のご協力を賜りました。日頃の同窓会活動のみならず、周年行事開催に向けて大変有難いものと感謝申し上げます。



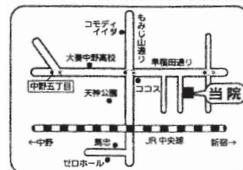
整形外科

リハビリテーション科

# 石坂整形外科

整形外科専門医、スポーツ、リュウマチ認定医 医学博士 石坂 公人(40期)

診療時間  
平 日 午後 9:00~12:00  
午後 2:00~6:00  
木・土曜日 午後 9:00~12:00  
休診日 日・祭日



中野区中野6-30-14

☎(3361)3522

本郷も赤門背にして  
ウォークすれば  
人々助けし順天堂  
憧れ 湯島のラブホ  
見上げつつ  
妻を恋して坂下る  
遙かに望む国技館  
明神下は五軒町  
そちらで留いし天ぷらと  
天職なのかと  
生きている  
天ぷら  
きよし



小沢 登志(39期)

高橋(小沢)庸子(60期)



## クマノミドー眼科

院長 熊埜御堂 隆 (55期)

〒164-0001 東京都中野区中野5-18-9

TEL 03-3388-5395 FAX 03-3388-6070



## 熊埜御堂耳鼻咽喉科

中野区上高田2-1-3 HNB 1階 03-5345-6201

院長：熊埜御堂 浩 58期

中野生まれ・中野育ち  
桃二小学校卒業  
不動産の事なら何でも  
お気軽にご相談ください!!



Good Life

株式会社グッドライフ

東京都知事(1)第98181号

代表取締役 高須 英和

〒164-0001

東京都中野区中野5-51-15

TEL.03-5343-7960 FAX.03-5343-7961

Email:h-takasu@goodlife-ree.com

高須英和(71期)

創業昭和三年

お茶とのり・椎茸

## 狭山園

〒165-0026 東京都中野区新井1-2-11

TEL (03) 3387-1637

3386-4180

FAX (03) 3387-4116

林キヌ(18期)・千佳代(47期)・延幸(51期)



曹洞宗 保善寺 獅子寺

学校法人 保善寺学園

ほぜんじ幼稚園

★対象児：満3歳児～5歳児 ★預かり保育(バング組)：保育終了～17時30分

★未就園幼児保育(たまご組)：午前中・未就園幼児が親子で先生と遊ぶ

心身ともに健康で、伸び伸びとした知的な子供に育てる  
生命尊重の保育と推進

〒164-0002 東京都中野区上高田1丁目31番2号

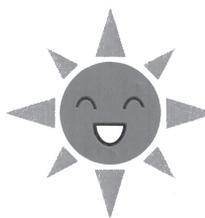
電話 03(3371)6840・(3364)3381 /FAX 03(3364)2858

園長 上村雄法 (80期)

## 中野駅北口 徒歩1分

清水宏之(52期)

内科 胃腸科 外科



## サンモールクリニック

〒164-0001 中野区中野5-65-12 TEL (03) 5345-5767

身がわり観世音

痛いところ  
苦しいところに  
手をあてて  
念じます  
南無観世音

中野六丁目 桃二歩道橋 **天徳院**  
大藪正哉(22期)

中野北口昭和新道商店街

**パニパニ**

代表 長谷部 智明 (52期)

〒164-0001  
東京都中野区中野 5-49-3  
TEL 03-3389-3883

焼きたて餃子  
立ち飲み  
Pani Pani

**フジヤカメラ**

1階 03-3388-0848 2階 03-3388-1586

営業時間 10:00~20:30

高額買取

大月浩司郎 (37期)

www.fujiya-camera.co.jp

古澤法律事務所  
弁護士 古澤昌彦 (52期)

\* 民事・家事・企業法務・訴訟・調停

〒105-0003  
港区西新橋 1-20-3-607 [虎ノ門法曹ビル]  
TEL 03 (3519) 5312 FAX 03 (3519) 5313

快適なメガネをお造りする  
トウキョーメガネチェーン 中野店

北口 サンモール

**メガネのマリコ**

☎3387-1409 東京都中野区中野 5-64-8

鞠子 潔 (53期)

煙草屋 **万富**  
MANTOMI

渡辺浩之(56期)

Cigar, Cigarette, Shag and Pipe tobacco etc.  
東京都中野区中野5-60-6(中野サンモール商店街内)  
TEL.03-3387-2927 FAX.03-3387-4927

実印・銀行印・社印・みとめ  
名刺・ハガキ・封筒・チラシ  
表彰状・感謝状・宛名書き  
カラー名刺・ハガキ・ポスター  
シャチハタ・ゴム印

**山田章**

〒165-0026 東京都中野区新井1-1-4  
(スギ薬局となり・BOOKOFFの前)

TEL: 03-3387-1061 山田佳代子(51期)  
FAX: 03-3387-1051 奥村 梨恵(76期)  
E-mail: sada@57luck.ocn.ne.jp 加藤 拓郎(79期)  
URL: http://www.yamada-in.jp 加藤 大悟(82期)

配電設計・測量調査

**株式会社 ユタカ**

代表取締役 森本 広 (52期)

〒164-0001  
東京都中野区中野5-24-21 3F  
TEL 03-3385-3217

同窓生の皆様の会社、お店、事務所などの広告を1枠が5,000円で掲載させていただきます。お気軽に活動の貴重な原資となりますので宜しくお願い致します。

**桃**

中野の健康を支えます

**ライフ薬局**

中野駅南口徒歩3分 TACのそば

今度 伸洋(34期)  
今度 有史(70期)

〒164-0001  
東京都中野区中野2-11-5 吉田ビル1F  
TEL: 03-3380-9393 FAX: 03-3380-9393